

Restless legs syndrome in hemodialysis patients: Prevalence and association to daytime functioning

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-11-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松井, 健太郎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/31574

主論文の要旨

Restless legs syndrome in hemodialysis patients: Prevalence and association to daytime functioning

(血液透析患者におけるレストレスレッグス症候群と日中機能への影響に関する調査)

東京女子医科大学大学院
内科系専攻精神医学分野
(指導：石郷岡 純教授) ㊞
松井 健太郎

Sleep and Biological Rhythms. Volume 13, Issue 2, pages 127-135, April 2015. に
掲載

【要 旨】

透析患者ではレストレスレッグス症候群 (RLS) を高率に合併する。本研究は①血液透析 (HD) 患者における RLS 有病率を明らかにすること、②同患者において、RLS 症度や透析条件が、うつや QOL 等の日中症状に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。645 名の末期腎臓病 (ESRD) 患者を対象に、社会統計学変数、透析条件、合併症の有無を確認し、不眠、抑うつ、QOL、RLS 重症度について質問紙を用いて評価を行った。抑うつ・QOL の低下に関連する要因について多重ロジスティック回帰分析を用いて検討した。回答が得られた HD 患者 504 名 (男性 332 名、女性 172 名) のうち、65 名 (12.9%) が RLS 診断基準を満たした。抑うつには不眠のみが独立して関連した。QOL スコアのうち、身体的健康度 (PCS) 低下に年齢、透析期間、不眠、抑うつ傾向、RLS の重症度が独立して関連したが、精神的健康度 (MCS) 低下には不眠、抑うつ傾向のみが独立して関連した。今回の調査では HD 患者における RLS 有病率は 12.9% で、アジアでの報告 (14-23%) と比較しやや低かった。抑うつや MCS の低下に RLS の重症度は寄与しなかったが、不眠との交絡が原因として考えられた。HD 患者における RLS の重症度は身体的 QOL の低下に関連するので、適切な診断および早期治療介入が望ましいと考えられた。